巻頭言「理念の継承　ドイツ改革派教会と宮城学院」

資料室運営委員会委員長
理事長・学院長　佐々木哲夫

創立の理念

学舎創立の理念を短い言葉で表現したものがスクール・モットーである。例えば、紀元前4世紀にプラトンによって設立された哲学学校アカデメイアの門戸には「幾何学を学ばざる者は入門を許さず」の言葉が掲げられていたとの伝承がある[1]。アカデメイアでは、幾何学、天文学、理論音楽などの数学的諸科学が哲学研究の予備知識として求められた。体育訓練を含む長期の教養課程を修めた者に哲学の学びと研究が許されたのである。アカデメイアは、529年に東ローマ皇帝ユスティニアヌスの勅令によって閉鎖されるまで続いた。この年は、ベネディクトウスがカッシーノ山に修道院を建てた年でもある。

その後1000年ほど経過した1559年、スイスのジュネーブに伝道者や聖書教師養成のために神学と哲学を修めるジュネーブ学院（現在のジュネーブ大学）が創設された。宗教改革者カルヴァンの起草した神の栄光のために奉仕する学舎である。開校当初各国からの正規聴講生約九百人が入学したという。学院入口には「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖句が刻まれていた[2]。カルヴァンは「主を畏れる」について「さて、主を恐れる恐れであるが、これがすべての聖徒たちにそなわるものであることは、聖書のいたるところに証言されていて、あるところでは『知恵』そのものであると言われている（詩篇111:10. 箴言1:7, 15:33, ヨブ28:28）」と記している[3]。「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖書出典箇所として『キリスト教綱要』では箴言1章7節が三回、箴言9章10節および15章33節が各一回記されている[4]。興味深いことに、箴言2章9節を引用することはなく箴言1章7節を繰り返し出典箇所としている。それゆえ、ジュネーブ学院入口の「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖書出典箇所を箴言1章7節と想定することは妥当である。しかし、この箴言1章7節については考慮すべきことがある。箴言1章7節は、以下のように邦訳されている。

1　廣川洋一『プラトンの学園アカデメイア』岩波書店、1980年、104頁。
2　シュテッケルベルガ『ただ神の榮光のために―カルヴィンの生涯―』新教出版社、1956年、195頁。
3　カルヴァン著作集刊行会『カルヴァンキリスト教綱要』Ⅲ/1、渡辺信夫訳、新教出版社、1963年、55頁。
4　『カルヴァンキリスト教綱要』Ⅱ、74頁、Ⅲ/1、55頁、Ⅲ/2、19頁。

エホバを畏るるは知識の本なり、
愚なる者は智慧と訓誨とを軽んず。[5]　（文語訳）

主を恐れることは知識のはじめである
愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。　（口語訳）

主を畏れることは知恵の初め。
無知な者は知恵をも諭しをも侮る。　（新共同訳）

主を畏れることは知識の初め。
無知な者は知恵も諭しも侮る。　（聖書協会共同訳）

当該箇所のマソラ本文（*Biblia Hebraica Stuttgartensia*）は、前半の下線部を *dāʿaṯ*（知識）、また後半の下線部を *ḥoḵmâ*（知恵）と記している[6]。因みに、詩篇 111:10，箴言 2:9，15:33，ヨブ 28:28 における「知恵」と邦訳されている語のマソラ本文は *ḥoḵmâ* である。すなわち、箴言 1 章 7 節前半部の直訳は「主を畏れることは知識（*dāʿaṯ*）の初め」となる。なぜ、カルヴァンは「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖句出典として箴言 2 章 9 節ではなく箴言 1 章 7 節を挙げたのであろうか。

『キリスト教綱要』冒頭に記されたフランス国王フランソワ一世献呈の辞の日付は 1536 年 8 月 1 日である。前年の 1535 年には『キリスト教綱要』を書き上げていたと考えられる。カルヴァン 26 歳の年である。身辺の多忙さのゆえであろうかラテン語初版の母語フランス語版は刊行されなかった。フランス語版は『キリスト教綱要』ラテン語第二版 1541 年以降である。カルヴァンは、オルレアン大学在学時にヴォルマール教師からギリシャ語聖書研究を学んだ。ヴォルマールは旧約聖書を学ぶ努力をしていた。ブルージュ大学転学卒業後、王立教授団のヴァッタブルからヘブル語を学び、独学でタルグムなどの学びをした。1534 年、カルヴァン回心経験の翌年にテクストゥス・レセプトゥスやヘブル語原典に基づくルタードイツ語訳聖書未製本完全原稿が提示された。ルターは、最後の修

[5] 元訳聖書で「エホバ」と訳出されている原語の יהוה (*yhwh*) は、神の高貴な名前であるが故にユダヤの伝統では直接音読することはせずに אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) の単語を代替させて朗読した。テトラグラマトン יהוה (*yhwh*) は聖書の神の固有名詞であり、אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) は主人を意味する普通名詞である。紀元後、マソラ学者はヘブル語子音本文に母音や句読点を付した。特に、子音本文の יהוה (*yhwh*) には、読みの אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) の母音を付して יְהוָֹה と表記し、朗読時には יהוה (*yhwh*) を (*ʾăḏōnāy*) と朗読した。その後、キリスト者は、יְהוָֹה をユダヤ伝統の読みではなく綴り通りに発音し、*Yəhōwāh=Jehovah*「エホバ」と音読したのである。今日の邦訳では יהוה (*yhwh*) を「主」と表記している。

[6] יִרְאַת יְהוָה רֵאשִׁית דָּעַת חָכְמָה וּמוּסָר אֱוִילִים בָּזוּ׃

正を 1545 年に施している[7]。他方、1545 年にはヘブル語原典を底本とするオリヴェタン仏訳聖書も出版されている。カルヴァンは、1535 年バーゼルで刊行されたにミュンスター版ヘブル語原典、タルグム（アラム語註解）、70 人訳（ギリシア語訳）[8]、ヴルガタ（ラテン語訳）[9] などを参照していたと想定される[10]。カルヴァンが、ヘブル語原典の釈義に基づくイザヤ書や創世記や詩篇の註解書を発行するのは 1552 年以降のことである。『キリスト教綱要』を執筆した頃は、ヘブル語原典による聖書解釈黎明の頃であり、70 人訳旧約聖書やラテン語訳ウルガタをヘブル語原典と同等に引照していたと想定される。70 人訳とラテン語訳はともに箴言 1 章 7 節前半部を「主を畏れることは知恵の初め」と訳出しており、カルヴァンは「主を畏れることは知恵の初め」の聖書出典箇所として箴言 1 章 7 節を挙げることに違和感がなかったものと推察される。

今日の日本においても創立の理念が掲げられている事例がある。例えば、国立国会図書館東京本館のホールに日本国憲法制定時の憲法担当国務大臣で国立国会図書館初代館長の金森徳次郎筆跡による「真理がわれらを自由にする」が掲げられている。これは、国立国会図書館法前文「真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される」との創設の理念から引用されたものである。因みに、「真理がわれらを自由にする」は、ヨハネ福音書の「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネ 8:32）と共鳴する。

ドイツ改革派教会と海外宣教

1546 年、ドイツ南西部プファルツ選帝侯フリードリッヒ 3 世はルター派を採用したがその後カルヴァンの聖餐論を採用し、1563 年にはドイツ語ハイデルベルク信仰問答を発布するなど信仰の一致を図った[11]。他方、17 世紀末頃、ドイツ人やドイツ系スイス人の農夫や労働者たちは信仰の志をもってペンシルベニアに移住しフィラデルフィア近郊にジャーマンタウンを拓いた。1720 年代にはドイツ人改革派教会の群れが形成されフィラデルフィアに教会堂を得ている。M. シュラッターを牧師に迎えたドイツ改革派教会は教派の群れをさらに成長させ、1774 年には三千席を擁する大会堂を建てた。やがて、ドイツの伝統を継承する神学校が創設され、1843 年新進気鋭の神学者フィリップ・シャフがマーサーズバーグの合衆国ドイツ改革派神学校教授に着任した。前年に出版された『アン

---

7 因みに、*Luther Bibel 1545* の箴言 1 章 7 節前半部は、“Des HERRN Furcht ist Anfang der Erkenntnis” と独訳されている。

8 箴言 1 章 7 節前半部は、Ἀρχὴ σοφίας φόβος θεοῦ.

9 箴言 1 章 7 節前半部は、Timor Domini principium sapientiæ.

10 渡辺信夫「解題」『カルヴァン旧約聖書註解創世記 I 』新教出版社、1984 年、7-8 頁。

11 フリードリッヒ 3 世は、説教者カスパール・オレウィアーヌス（1560 年 24 歳）と神学者ツァハリーアス・ウルジーヌス（1561 年 27 歳）の二人のカルヴィニストをハイデルベルクに招聘し、「ハイデルベルク信仰問答」の起草と編集にあたらせた。春名純人「解説」『改革教会信仰告白集』教文館、2014 年 302 頁。

クシャス・ベンチ』の著者 J. ネヴィンの協働者としてマーサーズバーグ神学を先導することになる。ドイツ語で行われたシャフの就任演説は翌年ネヴィンによって英訳され『教会の現状に関わるプロテスタンチズムの原則』の書名で出版された。神学校は、1871 年、ランカスターの地に最終的に移転しランカスター神学校と称された。このように合衆国ドイツ改革派教会の群れは、ドイツでのハイデルベルク信仰問答を告白する信仰を継承しつつ成長した。

1826 年合衆国ドイツ改革派教会全国総会は、アメリカ伝道協会を創設し、翌年外国伝道局を発足させた。南北戦争、マーサーズバーグ神学論争、アメリカ外国伝道協会からの離脱などの混迷によって長期間停滞していた外国伝道局は、1873 年、外国伝道活動開始のために刷新され、伝道候補地として日本を選択した。1878 年日本派遣宣教師第一号として A. グリングを選出した。グリング宣教師は、翌 1879 年 6 月に夫妻共々横浜に到着し、日本での活動を開始した。1883 年には二人目の宣教師 J. モールが夫妻で来日し活動を活発化させた。元大工町教会設立、番町教会礼拝開始、越ケ谷伝道など目覚しい成果を挙げた。1885 年 4 月グリングは、合衆国オランダ改革派教会宣教師バラと出会い、三人目の宣教師の活動地として仙台を紹介される。また、丁度上京していた仙台教会牧師押川方義とも会い協力関係を約束した。ランカスター神学校を 6 月に卒業したばかりの W. ホーイは、合衆国ドイツ改革派教会派遣三人目の宣教師按手を 10 月 15 日に受け、12 月 1 日には横浜に到着した。翌 1886 年 1 月 6 日の在日宣教師団会議は仙台での学校設立を決定し、同月 13 日に早くもホーイは仙台に着任している。

1884 年ミセス・グリングは二人の女性宣教師を日本に派遣するようにとの強い訴えを外国伝道局に書き送った。この訴えは公表され、数名の女性が応募した。1885 年 4 月、外国伝道局は、公立高校の教員をしていた E. プルボーと師範学校を卒業したばかりの M. オールトを女性宣教師に選出した。1884 年外国伝道局は、一人の宣教師の募集をも発表していた。それに応じたのが 1882 年に既に宣教師になることを決心していたホーイだった。彼は神学校での学びの後直ちに日本に向け出発したのである。ホーイと押川は、1886 年 5 月に木町通りと北六番丁角の借家に六人の生徒を集め、仙台神学校の講義を始めた。既に、同 10 月 11 日清水小路に開校された新島襄の宮城英学校（東華学校）に男子普通教育の道を譲っていたのである。

外国伝道局は女子教育の学校設立を期し、それまで財政難のため派遣延期をしていた女性二人の宣教師を派遣することにした。二人は、1886 年 6 月 1 日ペンシルベニア州ハリスバーク市セイラム改革派教会での送別礼拝後、3 日には日本に向け出発した。7 月 2 日横浜港に着き女子学校設立候補地でもあった東京築地などを視察した。外国伝道局の意向を踏まえ熟考のすえプールボーはかねてよりホーイからの強い招聘のあった仙台を女子学校設立の地と決め、横浜から荻ノ浜・塩釜の海路経由で 7 月 16 日仙台に着任したのであ

る[12]。1886 年 9 月 18 日に松平正直宮城県知事より女学校設立が認可された。この日をもって宮城女学校が設立されたのである[13]。申請人は押川方義、校長はプールボー、教員はプールボーとオールトの 2 名だった。最初の生徒数 10 名はすぐに 16 名に増え、仙台における女子教育の重要性が外国伝道局に逐次報告された。キリスト教に対する時勢変容に伴い 1891 年 3 月東華学校が閉校となり、入れ替わるように 1891 年 9 月 11 日東北学院設置が認可された。東北学院設置申請者は押川方義、初代院長押川方義、副院長に W. ホーイが就任した。

このように宮城女学校と東北学院（仙台神学校）は、ハイデルベルグ信仰問答に告白された信仰を基盤とする合衆国ドイツ改革派教会の祈りと経済的援助によって創設されたのである。宣教師たちはドイツ改革派教会の信仰に養われ、献身し、その生涯を送った。例えば、プールボーは、宮城女学校第一回卒業生 4 名を送り出した 1893 年 6 月、使命を果たした区切りとして校長職を辞しアメリカに帰国した。彼女は、同年 11 月 2 日マーサーズバーグ中会に属する牧師サイラス・コート師と結婚し、その後牧師夫人として献身的に教会に仕えた。コート師の死から 7 年後、1927 年 4 月 26 日にプールボーは家族に見守られ波乱に満ちた 73 歳の生涯を閉じた[14]。他方、オールトは、宮城女学院着任の翌年 1887 年 7 月にその働きの場を女学校教師から宣教師夫人としての働きに移し、ホーイと婚約し、12 月 27 日に東京で結婚した。ホーイは、1892 年に開かれた東北学院開院式に理事長として演説を行い「…もしもキリスト教的な声が聞かれなくなり、キリスト教的影響がこれらの建物の中で支配的でなくなることがあるならば、破滅の手よ、すべての煉瓦を引き倒して、塵と化せしめんことを…」と述べ宣教師スピリットを開陳している。やがて、次第に押川との確執が深刻化し、健康上の理由もあり最終的にホーイは東北学院を辞職する[15]。1899 年 4 月ホーイ夫妻は、中国に向かって日本を離れる。1927 年帰米途中の船上で病死するまでホーイは中国伝道に専心従事するのである。その後のホーイ夫人のオールトは、長女ガートルドとともに再度中国に渡り、湖南省にホーイが残した学校と教会の事業に従事し、1935 年 12 月 5 日 74 歳の生涯を閉じている。

マーサーズバーグ神学は、様々な形で宣教師たちに影響を与えた。グリング宣教師とモール宣教師の間の宣教方策に関する摩擦や、グリング宣教師が帰国後に英国国教会に移籍し再度宣教師として来日し平安女学院や京都の聖公会教会の創設に成果をあげたことが挙げられる。また、1887 年に来日し、第二代東北学院院長として 50 年間にわたり学生の宗教教育を牽引した合衆国ドイツ改革派教会派遣六人目の宣教師 D. シュネーダーは、

---

[12] 『天にみ栄え―宮城学院の百年』宮城学院、1987 年 271 頁。

[13] 設置申請書に記されていた住所は東二番丁 51 番地。これは、仮校舎として借用した県会議員田辺繁久所有の別邸の住所である。翌年東三番丁の土地を購入し、1889 年には新校舎を完成させ、東三番丁の住所に移転した。『天にみ栄え』168 頁。

[14] 『E・R・プールボー書簡集』宮城学院、2007 年、278 頁。

[15] 『東北学院百年史』東北学院、1989 年、450-459 頁。

1933 年の日本基督教学校教育同盟夏期学校主題講演『学生の宗教運動』において「オックスフォード運動はキリスト教の近世史を飾るまことに麗しい青年運動、学生運動の長い行列の先頭に立つもの」と賛辞を述べている[16]。

既述のとおり、仙台における宮城女学校と仙台神学校（東北学院）は、横浜公会や新潟の医療宣教師 T. パームとつながる日本基督一致教會仙台教會牧師押川方義、合衆国ドイツ改革派教会外国伝道局派遣宣教師たちの働きによって創設されたのである。さらに正確に表現するならば、東北学院第 8 代院長田口誠一の言葉「創立者ではなく創立者たちが有していたキリスト教信仰を土台として創設された」のとおり、彼らが有していた信仰こそが学院創設の土台であり建学の理念だったのである。それが宮城学院と東北学院においてどのように継承されているかさらに概観する。

聖句とモットー

「Glory to God」

宮城女学校第一校舎講堂正面に掲げられていた聖句である[17]。第一校舎とは、1902 年に火難で失った創立時の校舎（1889 年献堂）を 1904 年に再建した校舎のことである。建築総監督の W. ランペ宣教師は、献身的で信仰的な仕事ぶりを発揮し、工期と予算の節減に努めて完成させた。合衆国改革派教会外国伝道局長による 1905 年の報告において、第一校舎講堂は a large chapel と紹介されている[18]。講堂では、聖書が読まれ賛美歌が歌われ、様々の式典が執り行われた宮城女学校中枢の場所だった。その正面に刻まれていたのが「Glory to God」だった。

「Glory to God」は、アブラハム（ロマ 4:20）[19]や天の大軍（ルカ 2:14）[20]によって賛美され、天使が「神を畏れ、その栄光をたたえなさい」と命じた句である（黙 14:7）[21]。また、カルヴァン神学の要約である 5 つのソラの一つのソリ・デオ・グロリア（Soli Deo gloria）「神の栄光のみ」〔神にのみ栄光を〕やヨハンセ・バスティアン・バッハのほとんどの自筆譜の最後に記された「SDG」が想起される。「Glory to God」は合衆国ドイツ改革派教会の信仰を象徴していると推察される。今日「Glory to God」は『宮城学院教職員礼拝説教集』表紙を飾り、また宮城学院広報誌の誌名『Glory to God』になっている。さらに、旧制二

[16] 『シュネーダー説教集』東北学院、1971 年、276 頁。
[17] 『宮城学院 目で見る 120 年』宮城学院、2006 年、21, 24, 33 頁。
[18] 『天にみ栄え』374-6 頁。
[19] δοῦς δόξαν τῷ θεῷ (giving glory to God)
[20] δόξα ἐν ὑψίστοις θεῷ (Glory to God in the highest)
[21] φοβήθητε τὸν θεὸν καὶ δότε αὐτῷ δόξαν (Fear God and give glory to Him)

高の教授を務め大正年間に宮城女学校専攻科で英文学を講じた土井晩翠[22]作詞の宮城学院校歌の冒頭句「天にみさかえ、地に平和…」と共鳴し、宮城学院寄付行為前文「神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成する」との宮城学院「建学の精神」に通底している。

宮城学院創立の理念は、全学礼拝、学院礼拝、教授会開会礼拝、キリスト教（宗教学）講義などが形成する「全学に漂う雰囲気」として継承されてきた[23]。この雰囲気は、ホーイ宣教師の既述の言葉「キリスト教的な声…キリスト教的影響がこれらの建物の中で支配的…」の具体化である[24]。創立の理念は、2000 年 7 月 18 日の理事会において宮城学院の「建学の精神」およびスクール・モットー「神を畏れ、隣人を愛する」として成文化され制定された[25]。聖句引用については、「神を畏れ」が箴言 9 章 10 節、「隣人を愛する」がマルコ福音書 12 章 31 節とされている[26]。前者については既に論述したとおりで、後者の「隣人を愛する」は、新約聖書において 9 回記載されており、いずれもレビ記 19 章 18 節に基づいたものである[27]。創立の理念は今日の宮城学院に伸展している。

「地の塩、世の光」

建学の理念は、他方、東北学院では聖書の言葉をキャンパス内に掲げることによって継承された。例えば、箴言 1 章 7 節（中央図書館）、コリント第一 8 章 1 節（90 周年記念館）、マルコ福音書 10 章 44 節（押川会館）などである[28]。なかでも「地の塩 世の光」（マタイ 5:13-16）は、教職員在学生のみならず卒業生たちが自らを「地の塩の人々」と呼ぶ程の愛誦聖句である[29]。1931 年 1 月 24 日の夜、教員会に全院教職員を招集したシュネーダー院長は「基督教主義学校は危機に瀕している」との演説の中で「イエスは十二の使徒に『汝等は地の塩なり』と云い、又『汝等は世の光なり』と云われた。私共は断じて遅疑逡巡してはならない」と語りキリスト教学校教育の奮起を促している[30]。「地の塩 世の光」

---

[22] 「シオンの琴の震ふごと 天使の空をとぶがごと とはに新たにまことなる 光仰ぐもたふとしや」「愛と自由と平等の まことの光かゞやきて 天の王國來るとき 嗚呼其時をまちわぶる 友よもろとも手を引て薄暗の世をたどらまし。」土井晩翠『天地有情』［2016 年ゴマブックス］65 頁、74 頁。

[23] 社団法人日本私立大学連盟『建学の精神』1984 年、188-9 頁。

[24] 『建学の精神』189 頁。

[25] キリスト教学校教育同盟『加盟校の歩み―創立の礎』2011 年、16-17 頁。深谷松男「建学の精神が顕すものもの―二、三の覚書―」『宮城学院資料室年報 2014 年度』20、2015 年、1-22 頁。深谷松男『キリスト教学校と建学の精神』日本キリスト教団出版局、2000 年、38-45。

[26] 宮城学院キリスト教センター『学校法人宮城学院礼拝ガイド 2023』2 頁。

[27] マタ 5:43, 19:19, 22:39. マコ 12:41, 33, ルカ 10:27, ロマ 13:9, ガラ 5:14, ヤコ 2:8。

[28] 『建学の精神』269 頁。

[29] 『東北学院の 100 年』東北学院、1986 年、128 頁。カルダイ社編集部『ああ東北学院“学院”なくして東北の今は語れない』1979 年、80 頁。河北新報社編集局『―東北学院 100 年―われら地の塩』1986 年、5 頁。

[30] 『東北學院七十年史』1959 年、550 頁。

は、後に倉松功院長揮毫の扁額として泉キャンパス図書館入口に掲げられ、また、2017年東北学院土樋キャンパスにて開催されたキリスト教学校教育同盟第105回総会開会礼拝説教での聖書箇所とされた[31]。「地の塩の人々」は、この世を明るくする光でもある。「地の塩 世の光」の聖句は青山学院のスクール･モットーになり[32]、また、四国学院のユニバーシティ・モットー「Vos estis sal terrae」〔汝らは地の塩 マタイ福音書5:13〕として校章に刻まれている[33]。

「Life Light Love」

1922年、東二番丁に再建された東北学院中学部校舎の南正面入口真上に刻み込まれた言葉で、爾来3L精神として生徒たちの精神的シンボルになった句である。三語の組合せの意義、また誰が選んだものかは不明である[34]。シュネーダー院長の手紙や公的書類に言及はない。また、「信仰希望愛」がコリント信徒への手紙13章13節を連想させるように「Life Light Love」が連想させる聖書箇所はない。話者や本文の同定が不確かな句の釈義においては、読者志向の意味を読み込まないようにする慎重さが求められる。僅かに、日本基督教会東北中会機関誌『神と人』第17号（1923年）に掲載されたシュネーダー院長による「生命（いのち）、光明（ひかり）、愛」と題した記事に「Life Light Love」の意味が暗示されている[35]。第一は、生命について。普通の肉体的生命でなく、イエスキリストによって現れた生命のこと。すなわち、聖書にある永遠の生命のことである。第二は、智識の光明について。普通の智識ではなく、イエスキリストが「我は世の光明なり」と言われたその光明を所有する人格者となり広く世に伝え永久に輝くように努める必要があると解説されている。さらに、愛についてはドラモンドの著書『世界に於ける最大のもの』を参照しつつ「愛の精神に満ち溢れて、真心から奉仕を喜ぶ人物は日本の将来のため何よりも必要である」と説いている[36]。

1919年の仙台大火によって壊滅した中学部校舎再建のために宣教師シュネーダーは翌年単身渡米し、合衆国ドイツ改革派教会全国総会で募金を訴えた。3年越しの辛苦を経ての再興である。その校舎正面入口真上に「Life Light Love」が掲げられたのである。三文字の提案者がシュネーダー院長であるならば、手紙や公文書類に全く記録がなく『神と

[31] 佐々木哲夫「地の塩世の光（マタイによる福音書5章13-16節）」『命のファイル』教文館、2019年、196-198頁。
[32] 青山学院宗教センター『地の塩、世の光―人物で語るキリスト教入門―』教文館、2006年、211頁。『加盟校の歩み―創立の礎』45頁。
[33] 『加盟校の歩み―創立の礎』168頁。
[34] 『東北学院百年史』564頁。
[35] 「同上」
[36] ヘンリー・ドラモンド（1851-1879）スコットランド出身。グラスゴーのフリーチャーチカレッジの自然科学教授。愛に関して学生に語った説教が『世界最大のもの』の題で出版され英国のみならず広く世界の国々で読まれた。ヘンリー・ドラモンド『世界最大のもの』いのちのことば社、1998年［初版本1874年］、5-50頁。

人』の記事に関連聖句の言及が全くないことに違和感を覚える。しかし、シュネーダー院長以外の誰かが建築設計図面に三文字掲示を提案したとしても、そこに合衆国ドイツ改革派教会の海外伝道スピリットに通じる文化的文脈が通底していたことは想定可能と思われる。合衆国ドイツ改革派教会が初期に所属していた合衆国改革派教会の機関誌『The Missionary Guardian』の表紙に記されていた句が“LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD”である。マルコ 16 章 15 節の併記もあり宣教師たちの矜持が暗示されている[37]。

2020 年に東北学院のスクール・モットーに定められた Life Light Love の三文字は、クルト・ロイバー（Kurt Reuber,1906-1944）の描いた塹壕の聖母像を想起させる[38]。牧師と医師の資格を得たロイバーは、ナチスによる 1942 年のレニングラード攻防戦に軍医として従軍させられ、その後ロシアの捕虜となりウラル地方の収容所に入れられた。その間に聖母子像を 1000 点ほど描いている[39]。そこには、LICHT LEBEN LIEBE の三文字が記されていた。ロイバーは、神秘主義を主題とした論文でマールブルク大学から神学博士号を得て、ミカエル同胞団に加入している[40]。ドイツ神秘主義に連なる敬虔的信仰を有していたと思われる。中世ドイツ神秘主義者を紹介する W. R. Inge の著書名が『LIGHT, LIFE, AND LOVE』であることもドイツキリスト者に通底する信仰文化的文脈への示唆を与えてくれる[41]。

以上論考してきたとおり「建学の精神」や「スクール・モットー」は多様であるが、いずれにしても創立の理念は教育機関の教育目標であり、神と人とに祝される自律自存の優れた人材を育成する教育の土台として世代を超えて継承されるべき価値観である。

『2023 年度宮城学院資料室年報–信望愛 –』について

本年度は 6 本の原稿が寄せられた。藤沢智子氏は、1979 年に宮城学院女子短期大学教養科をご卒業後ただちにアナウンサーとして東北放送に入社されアナウンス部長など種々重職を歴任、2021 年より東北放送株式会社非常勤取締役および tbcAz 株式会社初代社長に就任され現在に至っている。2023 年 9 月 16 日の宮城学院創立記念講演会において「私と宮城学院」との題で東三番丁キャンパスや男女平等に変革する社会での経験についてご講演をいただいた。本稿はその講演の記録である。宮城学院での学びが女性の社会参画に貢献したとの講演内容に励まされた次第である。

---

[37] 「―命と光と愛を世界のために―LIFEW LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」『後援会通信 GROWTH』VOL. 2,2003, 13 頁。
[38] 『東北学院百年史』565-7。
[39] 場崎洋『塹壕の聖母』ドンテ・ボスコ社、2011 年 62-3 頁。
[40] “Kurt Reuber,” *Wikipedia* [https://de.wikipedia.org/wiki/Kurt_Reuber].
[41] W. R. Inge. Createspace Independent Publishing Platform, 2015. *LIFEW LIGHT AND LOVE-Selections from the German Mystics of the Middle Ages by W. R. Inge (1860-1954)*.

小羽田誠治先生「宮城学院女子大学における『自校史教育』の実践―コロナ禍での出発」は、2020 年より開始された科目「自校史教育」の開設経緯、講義内容、成果および展望についての論考である。「自校史教育」が宮城学院建学の理念を今日に継承する貴重な学びであることを教えられる。

松本周先生「三浦綾子の死生観とキリスト教信仰」は、1968 年に宮城学院同窓会主催講演会に来学され講演「私を変えた愛」を担当された作家三浦綾子の作品をキリスト教神学の視点から分析した論考である。三浦綾子の実存的経験における死から生への意識が犠牲の認識、特に十字架の信仰へ到達していることを明らかにしている。

佐藤亜紀氏「宮城女学校第 7 回生の夫たち―顔写真特定と目歯比率―」は、第 7 回生 5 人の卒業写真と晩年の顔写真の目歯比率照合によって人物特定を試み、また配偶者たちの生き方の概観によって、卒業後の各人の人生に思いを馳せたものである。同氏「宮城女学校の戦時期学籍簿の検討（2）―成績表と学科目の推移―」は、昭和 12 年から 16 年の成績表の概観、例えば、「聖書」の科目欄が削除されたこと、また随意科目とされた英語が家政科被服との選択制になったことなど、授業科目が時局悪化と関連していることを推察する。学籍簿に関する昨年度の論考に引き継いでの原稿である。

栗原健先生・木村春美先生「宮城学院の植物たち その 4 ―ツリバナ―」は、水の森公園に連なる桜ヶ丘キャンパスの豊かな自然を紹介する連続稿である。植物は、聖書の使信に深く関係するだけでなく宮城学院女子教育の清々しさをも象徴する。末筆ながら『2023 年度宮城学院資料室年報―信望愛―』にご寄稿くださった皆様の熱意とご労苦に感謝の意を表するものである。宮城学院の歴史の調査研究・記録保存は、宮城学院資料室に託された時空を超越する使命であり引き続き皆様のご支援をお願いする次第である。